高校生の親性準備性と支援に関する研究

人間福祉学科　生涯発達支援系　吉田愛惠

本研究は、岩手県内の高校生を対象に「親になる」意識を明らかにし、親性準備性がどのように培われていくのか、親性準備性を高めるための教育や支援について考察することを目的とし、アンケート調査を行った。

その結果、性別では、親性準備性は女性の平均点が高く、女性は妊娠・出産する立場であることを認識しているからではないかと考える。また、親性準備性を高める要因として、「子どもとの接触経験」「保健や保育の授業」「環境」が関連していた。育児への積極性については、育児を楽しみにしている人が多い反面、約 7 割の高校生が「育児をすることに対して自信がない」と回答していた。高校生の育児に対する不安感を軽減し、子どもや育児を好意的に受け止められるよう、子どもと触れ合う機会や育児についての授業など実践的な授業を多く行っていく必要があると考える。

今後の課題として、教材研究や育児不安に対する具体的な支援について検討していく必要があると考える。